

ラオス COFFEE JAPAN PROJECT

第4四半期報告書

2024年8月1日～2024年10月31日の活動

2024年11月30日

株式会社坂ノ途中 海ノ向こうコーヒー事業部



GENERAL OVERVIEW

活動概要

第4四半期には特に、簡易加工場の建設に重点を置いて活動が進められた。フア
ドイ村では加工場の建設がほとんど完了し、チョムチアン村とサー村でも大きく
進捗がみられた。また、これらの村には給水タンクも設置された。加工場の建設
作業は今後に残りの村で行われ、プロジェクトの第7四半期中の完了を目指して進
められる予定である。その他の活動として、第3四半期に配布されたコーヒーの苗
木が、すべて正しく農地に植えられているかどうかの確認も行われた。

また、プロジェクトの第2年目の定植シーズンに向けた準備や情報収集も行われ
た。地方農業局（DAFO）は村とのミーティングに参加し、コーヒー生産者グル
ープと森林地域の活用に関する協定の準備を進めている。

マーケティングおよび認知度向上の取り組みの一環として、坂ノ途中は日本で
開催されたSCAJ展示会に参加した。この期間中にラオスからサフロンのスタッフ
を招聘し、本プロジェクトを紹介するセミナーも実施した。セミナーの参加者の
多くは日本のコーヒー業界関係者であり、セミナーではラオスの状況やラオス産
コーヒーへの関心が高まり、好意的な反応が寄せられた。



IMPLEMENTATION OF ACTIVITIES

第4四半期の活動実績

I コーヒーの生産量向上のための活動

1. 新しいコーヒー栽培エリアの整備

前四半期からの進捗状況は特にない。

2. 農家への苗木の配布

2024年の定植シーズンに向けて計画されていたコーヒー苗木はすべて、農家に配布され、それぞれの農地へ植え付けが行われた。

■ 各村で定植された苗木の数

最終的な本数は以下の通り。苗木は、各村の状況や受け入れ体制に応じて配布された。（赤字が前回からの変更箇所）

郡	村	配布した苗木の本数	農家数		
District	Village	Numbers of Saplings	Farmers (Head of Household)		
			Women	Men	Total
VK	Saa	12,100	2	13	15
VK	Phou Kham	9,000	4	12	16
VK	Huay Gai	10,000	2	9	11
VK	Phou Dtong	11,000	3	10	13
PX	Long Lat	5,200	0	9	9
PX	Huay Lung Sung	9,000	4	6	10
PX	Jom Jiam	10,000	0	21	21
PX	Heua Doi	15,800	12	13	25

■ 2025年に向けたコーヒー苗木配布計画

2025年に実施されるコーヒーの苗木の配布に向けて、各村から情報を収集した。下表は、プロジェクト2年目に配布が予定されている苗木の本数を村別に表示している。人数はプロジェクト全体の参加者数を示すものではなく、来年の植え付けに向けて新たに苗木を受け取る予定の人数を反映したものである。各家族のなかで、コーヒー生産に労働力として関わることの可能な世代の人数を示している。

District	Village	Numbers of Saplings	Farmers		
			Women Individuals	Men Individuals	Total Family
VK	Saa	13,000	31	36	19
VK	Phou Kham	8,500	13	13	10
VK	Huay Gai	12,000	32	44	23
VK	Phou Dtong	6,500	13	19	12
PX	Long Lat	10,000	7	7	6
PX	Huay Lung Sung	10,100	17	15	15
PX	Jom Jiam	8,600	30	37	17
PX	Heua Doi	11,500	18	21	12



○苗木の配布の様子

3.加工用機械の導入

・加工用機械の購入とターゲット村への設置

加工場の建設が完了したファドイ村に、機械が搬入された。残りの村については、今後の加工場の建設が完了する時期に合わせて、プロジェクト終了までに順次搬入される予定である。

・簡易加工場の建設と排水タンクの設置

第4四半期に施設の建設が進められ、ファドイ村での建設が完了した。チョムチアン村およびサー村でも大きな進捗が見られた。残る施設の完成は、プロジェクト第7四半期末までに完了を目指す。排水タンクについては、加工場の建設完了後、第6四半期に設置される予定である。

・乾燥用ハウス

資材の購入はすべて完了している。（前回報告書より）

本第4四半期中には、加工場の建設作業を優先したため、乾燥用ハウスの設置は行われなかった。まずファドイ村に設置される予定で、残りの村への設置も、それぞれの加工場の建設完了に合わせて行われる予定である。収穫期初期に村へ運搬し、組み立てる予定である。2024/25クロップの時期に難しい場合は、その次の収穫期2025/26クロップでの導入を目指す。



○サー村での加工場建設の様子



○ファドイ村での加工場建設の様子



4.貯水タンクの導入

・各村へ貯水タンクを設置

現在、ファドイ村とプーカム村に給水タンクが設置済み。加工場の建設が完了したファドイ村では、利便性を考慮し、給水タンクがすぐ近くに設置された。サー村とチョムチアン村にはタンクが搬入されたものの、設置はまだ行われていない。プートン村およびロンラット村用のタンクは購入済みだが、未搬入の状態である。

前回の報告書にも記載したとおり、ファガイ村では、サフロンチームがタンクを搬入した後、設置が完了していないにも関わらず、農家グループが水を入れて使用しようとしたため、タンクが破損。ファガイ村のタンクは交換予定で、正しく設置が完了するまで使用しないよう、厳重な指示が出されている状態である。



○ファドイ村のタンク



○加工場のすぐ近くに設置（ファドイ村）

II 零細コーヒー農家の生産能力向上にむけた技術支援活動

1 & 2. マネジメント人材および普及員の増員

変更なし

Khamnoi氏	プロジェクトマネージャー
Lee氏	ポンサイ郡担当
Seng氏	ポンサイ郡担当
Dtom氏	ビエンカム郡担当
Tim氏	ビエンカム郡担当

3. コーヒーの定植とケアについてのトレーニング

第4四半期期間中には行っていない。

4. 加工技術に関するトレーニング

第4四半期期間中には行っていない。

5. インタークロッピング（間作）に関するトレーニング

間作に関する正式なトレーニングはまだ実施されていないが、対象となる村にはすでに植物や種子が配布されている。現在のところ、シェードツリー（遮光樹）の導入に重点を置いている。

今後のこの活動についても、引き続きシェードツリーの導入に加え、コーヒー農園内で一緒に栽培できる作物を植える予定である。これにより、栄養価の向上や収入源の選択肢の多様化といった効果も期待される。



○コーヒー栽培に必要な日陰の確保のため、農家にシェードツリーを配布した。

6.生産者グループの組織強化

グループ結成に関する公認文書はDAFOへ提出され、ビエンカム郡では承認を受け、ポンサイ郡では郡知事の承認待ち段階である。（前回の報告書からの進展はない。）

IIIビジネス機会の拡大のための活動

1.各ターゲット村における収量向上のポテンシャル調査

・選定エリアのマッピング

DAFOにより調査と地図の作成が行われた。坂ノ途中及びサフロンコーヒーはDAFOからの情報を待っている段階である。（前回の報告書からの進展はない。）

2.マーケティングの拡大

坂ノ途中はSCAJ展示会に参加した。展示会期間中、坂ノ途中はブース出展に加え、セミナーも開催した。セミナーでは「ラオス COFFEE JAPAN プロジェクト」に焦点を当て、サフロンコーヒーからトッド氏とショーン氏を招聘。また、WFP（国連世界食糧計画）からは田才氏がスピーカーとして参加した。

セミナーでは、WFPとサフロンコーヒー、そして坂ノ途中が、それぞれ本プロジェクトにおける役割についてのプレゼンテーションを行った。参加者は86名で、日本国内のコーヒー業界関係者（コーヒーメーカーやロースターなど）が多くを占めていた。

セミナー後には、参加者から前向きなフィードバックが寄せられ、中にはラオス産コーヒーを自身の店舗で取り扱いたいと関心を示す声も寄せられた。



○会場の様子



○試飲提供

3. 加工における設備投資

第4四半期期間中には行っていない。

4. 日本の消費者へのマーケティング活動

坂ノ途中はSCAJ展示会にむけて、ラオス産コーヒーのマーケティング促進を目的に、リーフレットとドリップバッグコーヒーを作成し、展示会イベント期間中に合計300セットを配布した。今後、別の機会にも販促物として活用する予定である。



○リーフレット



○ドリップバッグコーヒー

V コミュニティ及びその他関係者の参加

・政府機関の参加

本期間、DAFOは、各村の森林区画をコーヒー栽培に利用することに関して、コーヒー生産者グループとの契約合意書の作成を行っている。合意書には、既存の原生林の保全に関する規定や、該当区域での伐採制限などが盛り込まれている。各郡のDAFOの担当者はプロジェクト対象の村を訪問し、これらの規定についてコーヒー生産者グループへ説明を行った。

各郡のDAFOは、関連資料の準備やミーティングの主導、情報提供、必要書類の収集などの役割を果たしている。

・農家の参加

コーヒー苗木の配布を受けた農家は、それぞれのコーヒー農園まで苗木を運び、植え付け作業を行った。また、農家は加工場の建設や給水タンクの設置作業にも参加した。各活動やトレーニングは通常、段階や状況、時期に応じて、コーヒー栽培や加工といった特定のテーマに焦点を当てて実施され、基本的には該当の農家が参加している。一方、より一般的な内容のトレーニングについては、各家庭または村の代表者が参加し、そこで得た情報を、参加できなかった家族や他のメンバーに共有することを想定している。

第4四半期の振り返り

本期間中、サフロンコーヒーは加工場の建設に注力した。対象の村すべてにおいて建設完了はまだであるが、着実に進んでいる。

現在、ちょうど今年の収穫期が始まり、この収穫期中（第5四半期または第6四半期）に、サフロンコーヒーと坂ノ途中は加工技術に関する研修を実施する予定である。

マーケティング活動としては、本期間に東京で開催されたSCAJ展示会イベントに参加した。坂ノ途中は、2025年2月にラオスで開催される「JAPAN FESTIVAL」への参加も予定しており、その準備を開始しているところである。また、坂ノ途中は「COFFEE JAPAN PROJECT」およびラオス産コーヒーの認知度向上に向けて、引き続き、ウェブでのプロモーションにも力を入れていく予定である。

お問い合わせ情報

会社名：株式会社坂ノ途中 海ノ向こうコーヒー事業部

所在地：京都市南区西九条高畠町4

電話番号：075 - 205 - 5380

メールアドレス：umi@on-the-slope.com

ウェブサイト：<https://uminomukou.com/>

